

1. 目指す学校像

建学の精神である「力の人」、そして「高い志」「豊かな感性」「他への思いやり」という3つの教育理念を踏まえ、主体的に未来を創る女性を育てる。

「自学主義」の伝統に則り、知識蓄積と知識活用を両輪に「対話的で深い学び」を軸とした、21世紀型の学力を身につける授業を展開する。

2. 中期的目標

5ヶ年計画（2021～2025）

1. エンロールマネジメントの強化
2. 教職協働の強化
3. 財務基盤の強化

上記3点を目標に改革を進める。

1. エンロールマネジメントの強化

（1）生徒指導力の強化

- ① 創研講座の充実とアクティブラーニングの強化
- ② エンロールマネジメントによる募集と進路のリンク
- ③ 多様な進路への対応
- ④ 生徒の基本的な生活習慣の確立

（2）学習環境の増強

- ① ラーニングコモンズ第二期工事
- ② ICT環境の整備

（3）教科指導力の向上

- ① 大学入学共通テスト等の研究
- ② 高い教育力・授業力の実現

（4）生徒学力の向上

- ① コースに応じた目標設定

2. 教職協働の強化

（1）教職協働の促進

- ① 教員・事務職の業務相互乗り入れ

（2）ガバナンスの強化

- ① 教員の業務量および労働時間の適正化

（3）教育環境の整備

- ① 適正な教室数の確保と教育環境の改善

3. 財務基盤の強化

（1）入試募集の強化

- ① 安定した中学入試募集による予算基盤の強化
- ② 安定した高校入試募集による予算基盤の強化

自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
本校では「部署毎の年度総括」「保護者評価アンケート」「生徒授業アンケート」の3種類の資料を元に自己判断を行っている。 (1) 教育課程について 教育課程の適切な整備については81%が肯定的な意見、進路指導体制については69%が肯定的な意見で、いずれも若干の上昇がみられた。コース毎に進路指導の精度を高め、満足度の向上を継続する。 (2) 学習指導について 学力向上や学習内容の定着について、64%が肯定的な意見を述べているが、昨年比では微減となった。教育研究委員会の主催による授業見学と相互評価を見直し、コース別に最適な指導を教員全体で模索する。 (3) 進路指導について 進路指導の充実、進路情報の提供について、肯定的な意見は69%と横ばいだった。生徒・保護者対象の進路説明会や各大学を招いての相談会や個別の面接を充実させ、コース別の進路ニーズを満たすよう改善に努める。 (4) 生徒指導について 生活指導の充実、人権教育の充実、差別やいじめの防止に関する肯定的な意見は一昨年と同水準の76%だった。時代に応じた生徒主体のルール作りを意識しながら、適切な指導を継続していく。 (5) 課外活動について 部活動と学習の両立は昨年と同水準の77%だった。学校行事の充実に対する肯定的な意見は66%と微増したが、行事における生徒の自主性を涵養し、保護者にとっても満足度の高い内容を目指していく。 (6) 安全管理 登下校の安全や交通マナーに関する指導は肯定的な意見が84%と高い水準を維持している。施設の安全性と衛生的な管理は肯定的な意見が95%と昨年比で増加し、数年に渡る施設の改装が影響していると分析できる。 (7) 情報発信 授業参観やPTA行事についての満足度は85%となりここ数年は上昇傾向にある。学校からの情報発信についても89%と昨年比で上昇し、Classiによる生徒・保護者へのきめ細かな情報提供が評価されていると思われる。 (8) その他 入学させてよかったとの意見は82%となり、ここ数年は上昇傾向にある。教員間の一貫した対応については、肯定的な意見が70%と横ばいであった。今後も、生徒・保護者のさらなる満足度向上を目指す。	<自己評価に対して> (1) 教育課程について ・外部の専門家から指導を受ける創研講座で、レポート作成やプレゼン発表のスキルをトレーニングできている。 ・共通テスト対策を早い段階から実施すれば、一般選抜での入試を目指す生徒もモチベーションを高く保てると感じる。 (2) 学習指導について ・各教科で専門性の高い指導をしていただき、ありがたく思っている。勉強方法について、もう少しアドバイスが欲しい。 ・肯定的な意見が7割に満たない点は、早急な改善が必要。 (3) 進路指導について ・大学入試の変化へ対応し、生徒の希望に沿った進学実績に繋がっていることは、多くの保護者の期待感を高めている。 ・あらゆる進路選択に対応できる学習指導と保護者へのより具体的な情報提供が必要。 (4) 生徒指導について ・自習スペースでおしゃべりしたり、勉強以外の目的で長居する生徒がいると聞く。利用マナーを指導して欲しい。 (5) 課外活動について ・行事毎にホールや体育館を借りているが、少子化が進む中でこの環境を維持できるか不安がある。 ・スポーツデーがボールを使った競技ばかりなので、ダンスなどを披露する場にしてほしい。 (6) 安全管理 ・改装後の食堂は放課後に自習スペースとして開放され、良い環境が増えた。タニタ食堂メニューも好評と聞いている。 ・メニューの提供に時間がかかり、食堂利用のハードルが高い。スタッフ増員などスムーズな提供のための工夫が必要。 (7) 情報発信 ・最近はSNSの検索で情報を得る方も多いので、学校広報にインスタなどのSNSを利用してはどうか。 (8) その他 ・最先端の設備を使用しながら、生徒の探求心を強く後押ししてくれる環境に、保護者として誇りを感じている。 <保護者による学校評価について(過年度比較)> ・全体的に肯定的な意見が多く、前年比で横ばい及び微増の項目が多いことは安心材料と思う。 ・設備は整っているのに、マナーや学力向上に十分な成果が上げられるような環境づくりに力を注いで欲しい。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1 (1) 生徒指導力の強化	①創研究講座の充実と大学連携の強化を目指す。	①創研究講座において、大学の学部に対応する講座を開講し、オープンラボ「アクリオS」で外部講師を招いての理科実験教室を開催するなど、理系の取り組みを充実させた。	①学校運営会議による検討および創研究講座委員会との協議および保護者アンケート「学習指導」項目満足度 70%	①創研究講座や進路行事で理系の外部講師を招き、昨年に引き続いてアクリオSでの理科実験教室を開催するなど、生徒の理系進路へのモチベーション向上に努めた。保護者アンケートは 64%と前年比でやや減少した。	①創研究講座の内容をさらに吟味し、講座内容の改善を継続する。保護者アンケートは満足度 70%の達成を目指す。
	②社会につながる「トランジション教育」と生徒の進路実現の関連を引き続き検証する。	②トランジション教育の成果の一端として、様々な分野で活躍する卒業生を招いて、創研究講座の講師を依頼するなど、在校生や受験生に向けて有効な発信を行った。	②エンロールメントマネジメント委員会と進路指導部による分析および保護者アンケート「進路指導」項目満足度 70%	②創研究講座の講師として、各コースの卒業生を招くとともに、在校生との座談会などを開催し、双方にとって有益なフィードバックを得る機会を設けた。保護者アンケートは 69%と微増した。	②在校生に対するロールモデルとして、多方面で活躍する卒業生との対話は非常に有効であり、取り組みを継続する。保護者アンケートは満足度 70%越えを目指す。
	③多様化する大学入試と生徒の進路希望をマッチさせるきめ細かな進路指導を行う。	③多様化する大学入試の実態を分析し、面接指導や自己推薦書の添削など、個々の生徒の出願書類指導を進路指導部およびクラス担任で行った。また、コース内容に対応した学内説明会やキャリアガイダンスを開催した。	③エンロールメントマネジメント委員会と進路指導部による分析および保護者アンケート「進路指導」項目満足度 70%	③コース毎に特徴的な進路に応じた文章添削指導や面接指導を行い、成果物の質および生徒のモチベーションを向上することができた。また、総合型選抜で個々の生徒の経験や実績が評価されるようサポートを行った。	③増加傾向にある国立大学の総合型選抜入試への対応など、「社会の求める学力像」へ対応できるよう体制を整えていく。保護者アンケートでは、進路指導の満足度 70%達成を目指す。
	④自治会・生徒会活動を強化し、生徒が自律的に考えて行動できる指導を行う。	④生徒指導部会を「問題解決の場」とし、部員からの情報に対しどのように解決していくべきか全員で一丸となり取り組む。具体的には、以下の3点を実践していく。 1.生徒指導の問題を事前に防げるような取り組みを心がけ、学年でおきた生徒指導案件を部会で共有する。 2.生徒の規範意識を高めるための取り組みとして、各学期1回の風紀指導を行い、学校生活享受感を高める教育を模索する。 3.Major School Systemを活用し、生徒の指導内容の情報共有を円滑に進め業務の効率化を図れるよう運用の体制を整える。	④生徒指導部の年間計画および保護者アンケート「生徒指導」項目満足度 80%	④以下の3点を生徒指導部で実施した。保護者アンケート「生徒指導」の項目は前年から微増し、77%となった。 1. 学年担任団・学年生徒指導部・生徒指導部などで情報共有は円滑にされており、協力して解決しようとする積極的な姿が見受けられた。 2.生徒指導部主導の風紀指導を各学期に1回実施した。また、中高別のアリーナ朝礼やグラウンドでの始業式を全校で行うなど、生徒の規範意識を高める取り組みを行った 3.Major School Systemの活用方法を模索し、実際の現場で起こった事案を、次の予防や解決のためのモデルケースとして蓄積するよう努めた。	④様々な行事の中で生徒が活躍する場面を増やし、「自己肯定感」「他者肯定感」「学校肯定感」を育てていくことで、規範意識や他者を思いやる気持ちを抱かせる指導を行う。保護者アンケートの肯定的な意見の 80%達成を目指す。

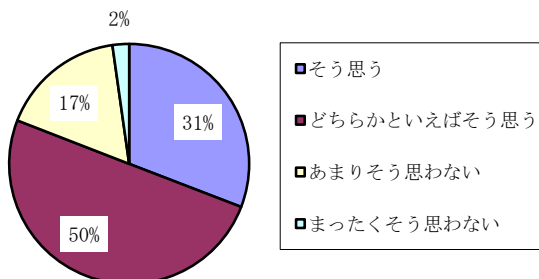
中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1 (2) 学習環境の増強	①生徒の「心理的安全性」高め、教育環境を整備するため、施設の改裝を継続する。	①食堂を改裝し、自習スペースとしても利用可能な「アーケテラス」として機能拡張を行った。また、コンビニの自販機を設置して昼食の選択肢を増やした。	①管理職と各部長で構成する学校運営会議での議論および保護者アンケート「安全管理」項目満足度 90%	① 8 月に食堂を「アーケテラス」として改裝し、「生徒の心理的安全性」を高めるための居場所づくりとして、従来の機能に加えて、放課後は自習スペースとして開放した。保護者アンケート 95%と微増し、非常に高い満足度となった。	①次年度は席数を確保するため、食堂のさらなる拡張工事と同時に、メニューの見直しを行う。保護者アンケートは満足度の維持を目指す。
	②ICT 環境をさらに整備し、「1人1台」ノート PC を持つ状況へ対応を行う。	②リースおよび購入によるノート PC の所持が中学全学年と高 2 までとなり、創研講座やレポート作成に活用機会が広がった。	②管理職と各部長で構成する学校運営会議での議論および保護者アンケート「安全管理」項目満足度 90%	②卒業レポート制作の学年である高 2 までノート PC の所持が広がり、調べ学習を含めて生徒たちは有効に活用している。保護者アンケートの結果は目標を上回った。	②次年度で高 3 までの「1人1台」ノート PC 整備が完了するため、各教科で授業内容のさらなる充実を図る。保護者アンケートの満足度維持を目指す。
1 (3) 教科指導力の向上	①大学入試共通テストの研究を継続し、新教科「情報」への対応を行う。	①各教科で大学入試共通テストの問題分析を行い、作成したレポートを授業へとフィードバックした。また本年度より導入される「情報」について、授業での指導内容を模索した。	①エンロールメントマネジメント委員会と教務部による分析および保護者アンケート「教育課程」項目満足度 80%	①大学入試共通テストの新教科である「情報」について、各社の予想問題をベースに高 3 生の学力涵養に努め、次年度に向けてカリキュラム変更を行った。導入 2 年目の新教務システムは、必要に応じて微調整を行った。新教育課程の満足度は 81%となり、目標を達成した。	①「情報」は、各大学の対応も考慮に入れながら、オンライン教材など新しい教材も活用し、柔軟に指導を対応させる。3 年目を迎える教務システムは、必要な機能の実装を急ぐ。保護者アンケートは引き続き目標達成を目指す。
	②生徒の希望進路を実現するための教育力・授業力を身に着けるべく、教員全体の指導力向上に努める。	②各学期に授業見学週間を設定し、教員が互いの指導方法について意見を交換できる環境を構築した。また、コース毎に異なる生徒の希望進路を実現させるため、各教員が授業内容の改善に努めた。	②学校運営会議による検討および教務部と各教科会との協議および保護者アンケート「学習指導」項目満足度 70%	②授業見学週間での意見交換を元に、各教員で指導方法の微調整や見直しを行った。Classi による課題や動画の配信も引き続き行い、生徒のフォローアップに努めた。保護者アンケートの満足度は 64%と横ばいだった。	②授業見学の方法やフィードバックの仕組みを精査し、各教員の持つ教科および生徒指導のスキルを学校全体として共有する仕組みを模索する。保護者アンケートは満足度の達成を目指す。
1 (3) 生徒の学力向上	①英検取得や模試偏差値や学外コンテストでの受賞など各コースの持つ性格に応じた目標設定とその達成を目指す。	①各生徒が希望する進路を達成するため、学内の評定平均値や模試成績、各種検定の取得状況、学外での活躍・コンテストへの参加経験などを基に、各コースの特徴に応じて必要な指導を体系化し、共有できるよう努めた。	①エンロールメントマネジメント委員会による分析および保護者アンケート「教育課程」項目満足度 80%	①進路指導部を中心として教員対象の模試分析会や生徒対象の進路ガイダンスなど、各生徒の志望を把握しながら、その実現に向けて継続的なサポートを行った。国立大学に総合型選抜で合格するなど、コース毎の進路状況に対応できた。保護者アンケートの満足度は 81%となり、目標を上回った。	①生徒・保護者の希望者が参加できる、私立大学および国公立大学を招いての説明会開催を次年度以降も継続する。また、模擬国連など学外のコンテストで受賞歴を持つ生徒が、その成果を大学入試に活用できるようサポートする。保護者アンケートでは、引き続き満足度の維持を目指す。

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
2 (1)教職協働の促進	①事務局との連携を強化し、教職協働を引き続き促進する。	①教頭と事務長の情報共有を密に行い、食堂やトイレの改裝を始めとする様々な業務を円滑化に行った。	①法人本部・教頭・事務局による協議	①食堂の大規模工事やトイレの改裝、人事採用を含めた解決すべき問題の共有を適宜行い、業務を円滑に進めることができた。	①次年度は、食堂の席数確保のために拡張工事を行う。引き続き、ハード面・ソフト面の双方で学内の解決すべき課題を協働で発見していく。
2 (2)ガバナンスの強化	①適正なワークライフバランスを実現するため、教員の業務量および労働時間の適正化を図る。	①前年度に引き続き、月毎の労働時間を教員毎に把握し、基準を越えた者に対しては教頭と人事部による面談を実施した。必要な場合は、業務の削減や振りかえを適宜実施した。	①教頭・法人本部とのワーキンググループによる協議	①労働時間の基準を越えた教員に対して教員と職員から成るワーキンググループによる聞き取りを行い、業務量とその内容について削減や見直しを適宜行った。	①これまでの取り組みによって教員全体の労働時間は適正化しつつある。教員のワークライフバランスを維持しながら、生徒・保護者の満足度を高めることのできる学校現場の構築を目指す。
2 (3)教育環境の整備	①生徒の数に対して適正な教室数と特別教室を確保する。	①生徒と教員の双方にとって快適な教育環境を整えるため、必要な施設の改裝を行った。	①管理職および学校運営会議による協議と保護者アンケート「安全管理」項目満足度 90%	①食堂の大規模工事を行い、9月に「アークテラス」としてオープンした。放課後は自習スペースとして開放し、教育環境の充実につなげた。保護者アンケートは 95%ときわめて高い水準を維持した。	①食堂エリアのさらなる拡張を行うと同時に、コンビニ自販機導入に続いてメニューの改良を目指す。
3 (1)入試募集の強化	①中学募集における入試行事を精査し、進む少子化の中で安定した定員確保を目指す。 ②高校募集での接触者数を増やし、受験者数の拡大を目指す。	①少子化が急激に進行する中で安定的に定員を確保するため、入試イベントを通じて学校の魅力を発信することに努めた。 ②全面無償化を受けて、新たに私学へ興味を持つ層への情報発信を適宜行った。	①入試広報部とアドミッションセンターによる分析および保護者アンケート「その他」項目満足度 80% ②入試広報部とアドミッションによる分析	①入試イベントの実施時期と回数を精査し、前年比で受験者数を増やすことができた。「この学校に入学させてよかった」と回答した保護者は 82%に増えた。 ②新聞社等の主催するブースに参加し、来訪者に学校の魅力を伝えるよう努めた。入試イベントの接触者は前年比で微減した。	①引き続き、入試イベントの頻度・内容と接触者数の相関を精査しながら、少子化が進行する中で定員確保を目指す。 ②次年度は公立中学校への訪問を積極的に行い、私学無償化を追い風に受験者数を増やすことを目標とする。

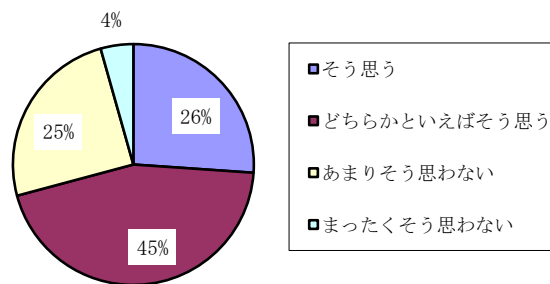
<2024年度 帝塚山学院中学校高等学校 保護者による学校評価アンケート結果>(委員＋一般)

<教育課程>

質問1 様々な進路希望に対応できるように、教育課程（選択科目など）は適切に整備されている。

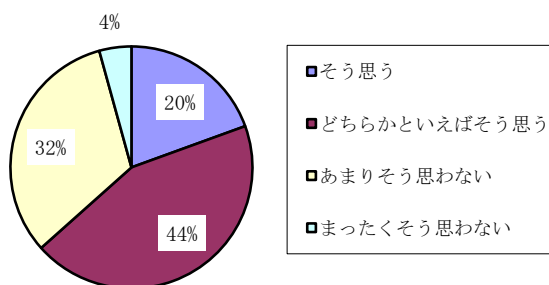


質問2 補習や講習は統合的に整備され、多様な進路希望に対応できる体制になっている。

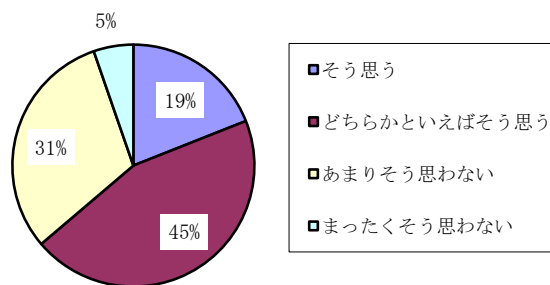


<学習指導>

質問3 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている。

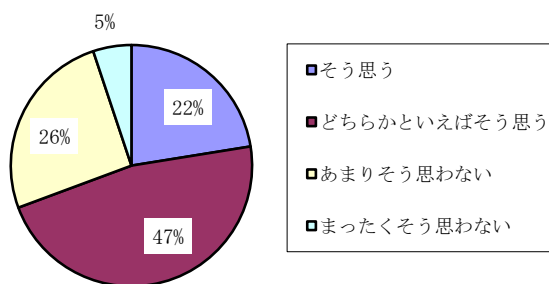


質問4 宿題や補習などを通じて、学習内容の定着を図る工夫がなされ、十分な効果を得ている。

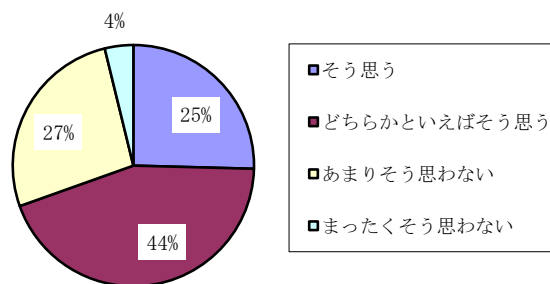


<進路指導>

質問5 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している。

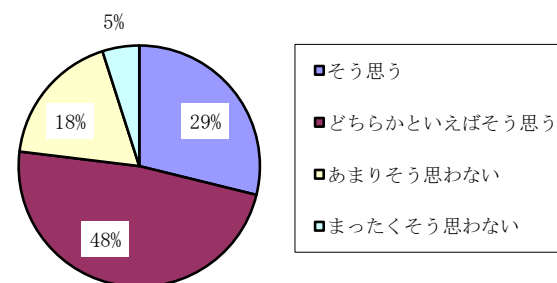


質問6 進学指導に必要な情報は、ガイダンスなどを通して保護者にも十分に提供されている。

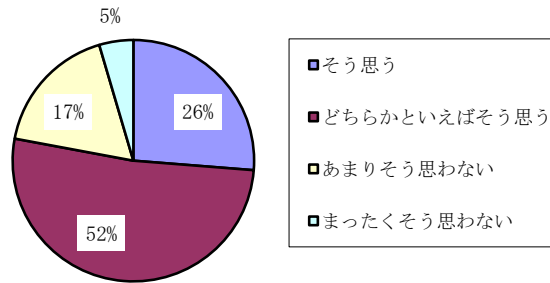


<生徒指導>

質問7 生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分寄与している。

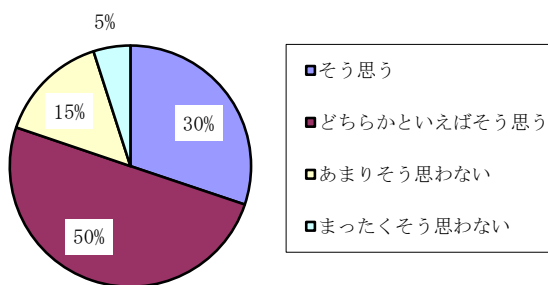


質問8 人権教育の充実がはかられ、差別やいじめの防止に十分な成果を挙げている。

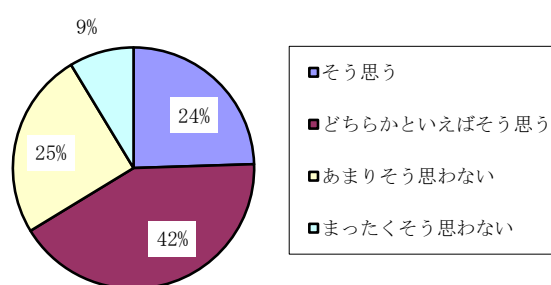


<課外活動>

質問 9 部活動は学習との両立について配慮がなされているとともに、生徒に十分な指導が行われている。

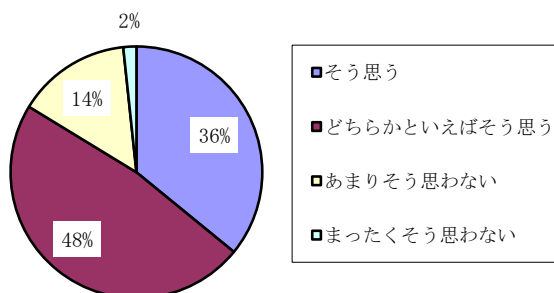


質問 10 学校行事は充実しており、生徒の自主性の育成に役立っている。

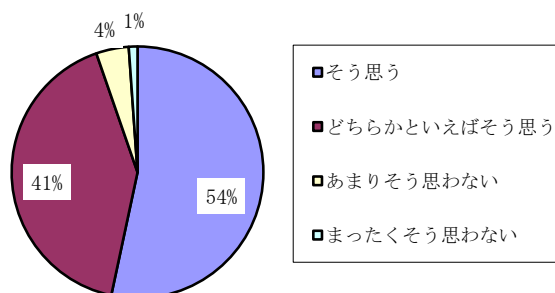


<安全管理>

質問 11 登下校の安全や交通マナーに関する指導が、十分なされている。

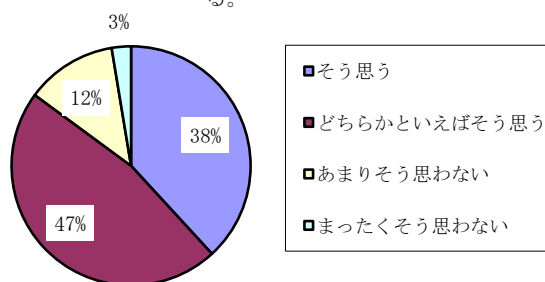


質問 12 施設・設備は安全かつ衛生的に管理・整備がなされている。

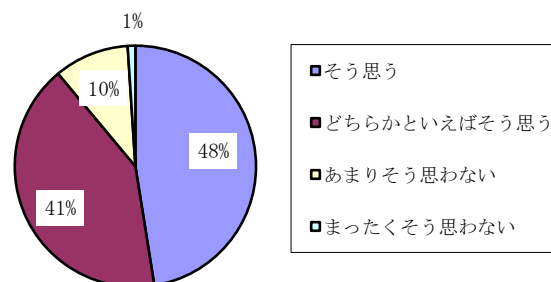


<情報発信>

質問 13 授業参観やPTA行事は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している。

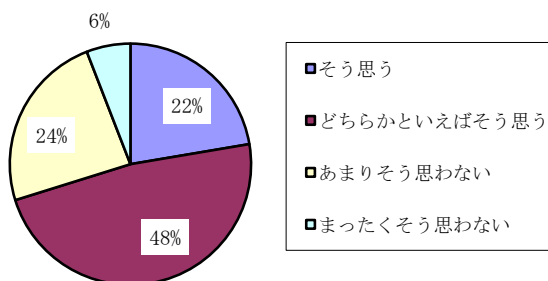


質問 14 学校からのお知らせ文書などを通じて、必要な情報を不足なく得ることができる。



<その他>

質問 15 教員はチームワークがとられており、どの教員に相談しても、一貫した対応が期待できる。



質問 16 この学校に入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）と思う。

